



時代という挑戦

令和8年2月26日

黒田インターナショナルコンサルティング LLC

黒田 毅

時代変化は未来という踏み絵を与え、企業はその淘汰を得る。それらは時代という今日の洗礼である。

これらは新たな未来の要求が企業におけるその参加の条件であることは、今日の変化において正しいと判断できるのである。

これらはより高い技術や製品基準、また生産性が新たな未来の基準となるからである。

これらは、はるかに厳しい基準における企業経営の要求が存在し、それらは市場原理とともに、企業に対してはるかに高い要求を与えるものである。

これらは、企業が未来への参加を模索するとき、新たな基準とルールが存在し、それらが未来という新たな現実における企業経営の実現を与えるものであると判断できるのである。

これらは視点を変えるならば、新たな生産性や自動化におけるコアコンピタンスは、サステナブルという持続する企業のプレゼンスを可能とできるのである。

これら高い生産性基準や製品基準はその企業の固定したプレゼンスを可能とできるものであり、それらが今日のインフレという市場の転換や、高い利益性における企業基準への変化などにおいて、企業の永続的に現実の固定化を与えるものである。

これらは経営基準や視点の転換が求められるものであり、それらは新たな企業環境や経営の実現を求められるものであると考える。

これら未来におけるルールと必要性を克服することは、未来における経済と企業における新たな可能性を実現できることであり、それら必然性に対して企業はそのハードルを越える必要があるものであると考える。

これら厳しさは明らかに未来という現実が企業を淘汰することであり、それらは今日の変化が有する一つの真実であると考ええる。